



CONTENTS

- 03 震災から1カ月—
再び襲った震度6弱
- 08 23年度予算
- 11 博物館だより
- 12 まちのトピックス
ふれ-ふれ-クラブ
／笑顔でGOOD
- 14 健康コーナー
- 18 図書館だより
- 19 暮らしの情報
- 24 とっておきいちのせき

COVER STORY

表紙
 命を守るプロフェッショナルを目指して



4月14日、室根町に救急救命士を養成する専門学校「国際医療福祉専門学校一関校」が開校しました。
 平成21年3月に閉校した室根町の旧釘子小学校を活用し、開校した同校。千葉県に本部のある学校法人阿弥陀寺教育学園が運営します。
 入学式で宇野弘之理事長は「山あり、川あり、海にも隣接しているこの地は、様々な実習に

適した環境。初心を忘れず頑張るってほしい」とあいさつ。
 新入生を代表して松尾崇志さん(25)は、「この度の震災を経験し、誰よりも命の大切さ尊さを理解し、思いやりのある救急救命士になることができると強く感じている。2年間、互いに協力し研さんに励み、真のプロフェッショナルを目指していきたい」と30人の新入生を代表して誓いました。

黙とうささげ、誓う復興

東日本大震災の発生から1カ月を迎えた4月11日午後2時46分、市役所本庁および各支所において震災で失われた多くの尊い命に対し、冥福を祈り、心からの哀悼の意を表すため黙とうを行いました。



本庁では田代副市長が、来庁された人や職員に庁内放送で呼び掛け、黙とう。亡くなられた皆さんに報いるためにも、早期の復旧・復興へ向けた市民の協力を要請しました。

またこの日、勝部市長と菅原平泉町長、畠山藤沢町長は、津波で壊滅的な被害を受けた陸前高田市を訪れ、1200人以上を数える犠牲者に黙とうをささげました。

3市町長は、同市高田町に設けられた仮庁舎前の広場に同市の戸羽市長、市職員、消防団員、自衛隊員ら約100人とともに整列。地震発生時刻を知らせるサイレンを合図に1分間、犠牲者の冥福を祈りました。

黙とう後、戸羽市長は「あつという間の1カ月だった。今日を一つの区切りを前に向いていきたい」と語り、



復興への決意を新たにしていました。勝部市長は「隣接市としてしっかり後方支援していく」と語り、今後も継続的に支援していくことを強調。

市は3月29日、平泉町、藤沢町と合同の支援本部を設置し、車両提供や職員派遣、避難者の受け入れなど同市を含む沿岸3市の復旧・復興の支援活動を展開。4月下旬からは県を通じて、同市へ職員9人を派遣しています。

震災から1カ月—
再び襲った震度6弱

死者・行方不明者が2万7000人を超え、約15万人の人たちが、厳しい避難生活を余儀なくされる。未曾有の大災害となった東日本大震災。4月7日深夜に発生した、マグニチュード7.1の余震は、市内で本震と同じ震度6弱を観測。落ち着きつつあった市民生活は、再びの停電、断水でおびやかされ、復興への足を止めるような、甚大な被害を当市にもたらしました。

(7ページまで)

再び襲った震度6弱の余震で、外壁が大きく崩落した萩荘公民館



3



4

- 1 再びの断水に、自主防災組織などの協力を得ての給水活動
- 2 余震により大きく傾いた電柱(赤荻地区)
- 3 停電のため信号も消えた交差点(東山町長坂地区)
- 4 倒壊した沢配水池



2



1

震度6弱再び

住宅への被害など甚大

3月11日に発生した巨大地震から1カ月を迎えようとしていた4月7日午後11時32分ごろ、宮城県沖を震源とするマグニチュード7.1、震度6弱の余震が当市を襲いました。3月11日の本震に匹敵する大きな余震により、震災からの復旧と沿岸被災地への後方支援にかじを切り始めた当市に、またしても甚大な被害をもたらしました。

【人的被害】

落下物による負傷や割れたガラスによる切り傷など13人が軽傷を負いました。

【ライフライン】

電気は、送電が停止されたことから地震発生と同時に全域で停電となり、4月9日に全域で復旧しました。水道は、一関地域を中心に各地域で断水。約2万2600世帯が影響を受けました。この余震により沢配水池が倒壊し、200トン余りの水が流出する被害も。給水車を配置し最大で28カ所に給水所を設けながら、復旧に努めました。簡易水道を含めた全世帯

東日本大震災から、今日でちょうど1カ月を迎えました。まず、この間の不便な環境の中で市民の皆様が状況をよくご理解いただき冷静に行動していただきましたことに感謝申し上げます。

時間の経過とともに、沿岸の被害の大きさと、その無残さに本当に身のすくむ思いであり、津波に飲み込まれた惨状をみると、こころが痛んでなりません。また、福島第一原発の事故も、私たち日本人の生活についても少なからずの影響を与えるものと思います。

市民の皆様には、余震が収まりつつあった矢先の4月7日に震度6弱の地震が襲いかかり、再び恐怖を覚えた方も多かったのではないのでしょうか。

さて、一関市は、相次いだ二度の地震により、家屋をはじめ、農業、工業、商業、そして、多くの社会資本においても多大な被害を被っていることが、調査が進むにつれて判明してきております。しかし私たちは、いつまでもこの悲しみを憂いてはいただけません。市として、市民の皆様と一体となり、一日も早く以前の生活にもどれるように取り組んでいかなければなりません。そのため、市としてできる限りの支援をまいりますので、市民の皆様においても希望をもって復興に努力をいきたいと思います。

また、私たちの一関に隣接する陸前高田市と気仙沼市が津波により多くの尊い命が奪われ、住み慣れた町も全て押し流されました。市として、古くから交流の歴史があり、最も近隣の町の復興を支援していかなければならないと考え、平泉町、藤沢町と連携してできる限りの後方支援を行ってまいりました。市民の皆様が、自らが被害者でありながらも数多くの救援や惜しめない協力をされている姿を見るとき、市長として皆様から感謝申し上げる次第であります。

ちょうど1カ月経過の日に、「がんばろう一関」「がんばろう気仙」を合言葉に、この地域の完全復興を目指して前進していくことをみんなで誓いあいましょう。

一関市長 勝部 修

の復旧は13日となりました。道路は、3月11日の本震の影響と合わせ、市道37カ所、県道4箇所、国道2カ所が全面通行止めとなりました。公共交通機関は、鉄道が影響を受けました。東北新幹線は、一ノ関〜新青森間が4月7日に再開したばかりでしたが、再度運行を見合わせました。24日に一ノ関〜盛岡間が運行を開始する予定です。東北本線も一ノ関〜水沢間で運転を見合わせていましたが、15日から運転を再開しています。また、大船渡線も18日から運行を再開しました。

【住宅などの被害】
今回の余震で最も被害が大きかったのが、住宅への被害が全壊、大規模半壊などの被害が多く報告されています。特に一関地域の赤荻地区などで被害が集中。市では二次災害防止のための建築物応急危険度判定を行い、危険と判定された世帯に対し、雇用促進住宅など居住場所の確保に努めています。